

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害の理解 I Understanding Disabilities I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟3階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を学ぶと共に、障害のある人の体験や、本人及び家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を理解する。				
授業の目標				
①障害の概念を説明できるようにする。 ②障害の分類と根拠法および各障害の基礎知識を修得できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、演習も併用する。				
学習の成果（学習成果）				
各障害の基礎知識を修得し、本人を取り巻く環境に配慮した介護の視点について具体的に説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、障害とは何か			
第2回目	障害の基礎的理解① 障害の分類と根拠法、統計的実態と動向			
第3回目	障害の基礎的理解② 障害の概念（ICIDHとICF）			
第4回目	障害の基礎的理解③ 障害福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、IL運動）			
第5回目	障害の基礎的理解④ 障害福祉の基本理念（インクルージョン、障害者の権利に関する条約）			
第6回目	障害のある人の生活の理解 I ① 身体障害 肢体不自由（視聴覚教材）			

第7回目	障害のある人の生活の理解Ⅰ② 身体障害 視覚・聴覚・言語障害	
第8回目	障害のある人の生活の理解Ⅰ③ 重複障害 【演習】重複障害の体験（レポート1 提出：10回目）	
第9回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ① 肢体不自由（運動機能障害）	
第10回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ②-1 知的障害（視聴覚教材）	
第11回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ②-2 知的障害（振り返り）	
第12回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ③-1 精神障害（視聴覚教材）	
第13回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ③-2 精神障害（振り返り）	
第14回目	障害のある人の生活の理解Ⅱ④ 高次脳機能障害	
第15回目	障害のある本人を取り巻く環境に配慮した介護の視点について まとめ	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	テキスト・配布資料等を活用し自主的に授業に参加し、メモしている。
レポート	20%	レポート1：演習の振り返り S：演習内容を踏まえ、障害による不自由さを具体的に記述している。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	介護福祉士国家試験に準じた選択式の試験及び論述試験である。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：最新・介護福祉士養成講座 「障害の理解」 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士（介護職）、職歴：通算6年1ヶ月） 積極的に参加し学びを共有すること。授業中の居眠り、携帯電話、メールの使用、その他授業に関係のない物について、授業中は使用しない事。		